北九州工業高等専門学校	総合科学科	開講年度	平成30年度 (2018年度)

学科到達目標

準学士課程の教育目標
(A)技術内容を理解できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者
①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。
(B)専門分野における基礎知識を身に付けた技術者
①専門分野における工学の基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。
(C)専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者
①実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
②機器類（装置・計測器・コンピュータなど）を用いて、データを収集し、処理できる。
③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
④実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。
(D)身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者
①専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。
②工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
③工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。
(E)多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者
①歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
②日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
③英語によるコミュニケーションの基礎能力（読解・記述・会話）を身に付ける。
(F)歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者
①歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
③技術者としての役割と責任を認識できる。
(G)社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者
①健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
②社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後		前		後	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	英語Ｃ	0167	履修単位	2																	2	2			伊藤 晃,柏木 哲也	
一般	選択	法学（社会選択）	0168	履修単位	1	――――――

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	法学（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0168	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	総合科学科	対象学年	5
開設期	前期・後期	週時間数	4
教科書/教材	「民法」、小川富之著、八千代出版		
担当教員	廣瀬 孝壽		

到達目標

自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	基礎的な法の特性を十分に理解できる。	基礎的な法の特性をほぼ理解できる。	基礎的な法の特性を理解できない。
評価項目2	具体的な問題を法的に十分に説明することができる。	具体的な問題を法的にほぼ説明することができる。	具体的な問題を法的に説明することができない。
評価項目3	法の目的を理解し、公正な社会について十分に考えることができる。	法の目的を理解し、公正な社会についてほぼ考えることができる。	法の目的を理解し、公正な社会について考えることができない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
準学士課程の教育目標 F① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。

教育方法等

概要	社会生活と法との関係を理解し、法が形成された歴史的意義を学習する。具体的問題の法的な解決手段を考え、問題点を探し、より良い社会にするために必要な法のあり方を積極的に考える。
授業の進め方・方法	具体的事件を取り上げ、関連する法概念を解説するので、より良い解決策を考えること。法律の条文は膨大であり、また、法改正によって変化し続けるものであるため、教えてもらうという意識よりも、法的に思考できる社会人になることを意識して学習すること。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	前14
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	3	

評価割合

	試験	レポート発表	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	文化交流史（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0169	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	岡部牧夫『海を渡った日本人』（山川出版社、2002）		
担当教員	大熊 智之		

到達目標

1）民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
2）19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	民族、宗教、生活文化の多様性をおおむね理解できる。	民族、宗教、生活文化の多様性についての理解が十分でない。
評価項目2	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、おおむね理解できる。	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係についての理解が十分でない。理解が十分でない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 E①　歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
準学士課程の教育目標 F①　歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。

教育方法等

概要	近代以降に日本人が経験した海外（東アジアを中心とする）との接触/交流の歴史を学ぶことで、異文化との良き出会い方について考える。
授業の進め方・方法	教科書をもとに映像資料を含めた資料・史料を使い授業を展開する。タイムリーな話題に関するプリントなどは適宜配布予定であるが、教科書・ノートを毎回準備すること。世界の出来事や話題に対して興味を持ち授業に参加されたい。
注意点	受講人数の多寡に応じて授業計画は変わりうる。詳しくは講義の中で指示する。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	
		2週	文化交流史とは何か（1）	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
		3週	文化交流史とは何か（2）	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
		4週	近代日本の移民活動（1）	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
		5週	近代日本の移民活動（2）	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
		6週	近代日本の移民活動（3）	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
		7週	学生発表（1）	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
		8週	学生発表（2）	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
	2ndQ	9週	学生発表（3）	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
		10週	学生発表（4）	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
		11週	学生発表（5）	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
		12週	学生発表（6）	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
		13週	学生発表（7）	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
		14週	総合討論	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
		15週	期末試験	
		16週	試験解説	
後期	3rdQ	1週	近代日本と植民地（1）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		2週	近代日本と植民地（2）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		3週	近代日本と植民地（3）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		4週	近代日本と植民地（4）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		5週	近代日本と植民地（5）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。

		6週	学生発表（1）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		7週	学生発表（2）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		8週	学生発表（3）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
	4thQ	9週	学生発表（4）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		10週	学生発表（5）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		11週	学生発表（6）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		12週	学生発表（7）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		13週	学生発表（8）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		14週	総合討論	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		15週	定期試験	
		16週	試験解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	
		グローバリゼーション・異文化多文化理解	グローバリゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合

	試験	レポート・課題	合計
総合評価割合	40	60	100
基礎的能力	40	60	100

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	哲学・倫理学（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0170	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	改訂版「いのちとすまいの倫理学」（工藤和男著、晃洋書房、2010年）		
担当教員	古賀 崇雅		

到達目標

1:人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。
2:現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
3:社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察し説明できる。	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できない。
現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できない。
社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解し説明できる。	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について説明できる。	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について説明できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
準学士課程の教育目標 F① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。

教育方法等

概要	本授業は、技術者として備えるべき意識や、技術と社会の関係について、哲学(倫理) 的思索を深めることを目的とする。価値観が多様化している現代社会において、人は自由に自己の価値観を選択し、構築出来る。そのような状況の中、「人として」「技術者として」生きていく上で何が必要なのか。様々な哲学思想・宗教の思考様式を紹介しながら、それを自己のものとして理解し、活用できることを目指す。
授業の進め方・方法	哲学における様々な思考様式を用い、「現代社会における倫理的問題」について考察し、討論する。毎時間配付する資料と教科書を事前に読み、論点を把握した上で授業に参加することを必要とする。また、授業ではグループワーク形式によるディベート・プレゼンテーションなどを行うため、「開かれた思考」と主体的な参加姿勢、また他者の意見を傾聴する社会的素養を求める。
注意点	「自己の意見」の表現を必ず行う機会を設けるため、普段から身の回りや社会の動きなど時事問題に関心を持って、授業に臨むこと。また、自己と他者の価値観の根拠や、その相違をみつめた上で、自己の方向性を創出できること。そのために必要な問題意識や様々な思考方法を理解し、身に付けていることも求める。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス：様々な視角と思考方法（倫理学的ジレンマなど）	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。
		2週	哲学(倫理学) の射程１：懐疑的自己と自己証明	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。
		3週	哲学(倫理学) の射程２：クリティカルシンキング（基準と価値観）	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。
		4週	哲学(倫理学) の射程３：科学的仮説の自己矛盾と限界（思考実験）	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。
		5週	哲学(倫理学) の射程４：運命論と自由意思について	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。
		6週	哲学(倫理学) の射程５：運命論と自由意思についてのディベート	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。
		7週	哲学(倫理学) の射程６：時空の最小単位とパラドックス	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。

		8週	哲学(倫理学) の射程７：量子論と宇宙論の現代社会に於ける影響と展開	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。
	2ndQ	9週	中間試験	
		10週	環境倫理の思想的背景	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。
		11週	環境倫理学の基礎１：産業発展と環境破壊への関心	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。
		12週	環境倫理学の基礎２：環境問題解決への様々な視座と課題	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。
		13週	食を取り巻く倫理的課題１：個人レベルでの食事情の変化とその問題（社会的背景とその解法）	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。
		14週	食を取り巻く倫理的課題２：国家レベルでの食糧問題（自給率と輸入率が抱える問題とその解法）	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。
		15週	食を取り巻く倫理的課題３：地球規模の食糧問題及びその解決に向けた国際協力について（人口爆発と耕地面積の減少、水質悪化）	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。
		16週	期末試験	
後期	3rdQ	1週	生命倫理学：生と死の定義及びその考察意義	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
		2週	「死」を扱う技術１：「死亡時刻」の変化と社会的背景	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
		3週	「死」を扱う技術２：脳死臓器移植の社会的背景と倫理的課題	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
		4週	「死」を扱う技術３：脳死臓器移植に関するグループワークとプレゼンテーション	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
		5週	「死」を扱う技術４：安楽死問題の社会的背景と倫理的課題	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
		6週	「死」を扱う技術５：安楽死問題がもたらす社会に関するグループワークとプレゼンテーション	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
		7週	「死」を扱う技術６：安楽死問題と脳死臓器移植がもたらす社会的影響について	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
		8週	生物学的死、社会的死、「ひととしての死」を考える視座	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
	4thQ	9週	中間試験	
		10週	「ひとのいのち」を考える大前提	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
		11週	「生」を扱う技術１：「ひとのはじまり」と法的定義	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
		12週	「生」を扱う技術２：出生前診断と人工妊娠中絶に関するグループワーク	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
		13週	「生」を扱う技術３：不妊治療問題の社会的背景と「こども」の人権について	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。

		14週	「生」を扱う技術４：遺伝子治療と遺伝子ドーピング。人体改造がもたらす社会的影響について	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
		15週	生命とそれに関連する技術の進展がもたらす社会に対する視座	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	
				科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	
		グローバリゼーション・異文化多文化理解	グローバリゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合

	試験	発表	レポート	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	20	40	10	0	0	100
基礎的能力	30	20	40	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	文化地理学（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0171	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	使用しない		
担当教員	白神 宏		

到達目標

民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。
現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
世界の食文化の現状、食文化が形成された背景について考察し、説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	民族、宗教、生活文化の多様性を十分理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について深く考察できる。	民族、宗教、生活文化の多様性をおおまかに理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性についてほぼ考察できる。	民族、宗教、生活文化の多様性を理解できず、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できない。
評価項目2	世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から広く展望できる。	世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点からおおまかに展望できる。	世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できない。
評価項目3	世界の食文化の現状、食文化が形成された背景について深く考察し、十分説明できる。	世界の食文化の現状、食文化が形成された背景についておおまかに考察し、ほぼ説明できる。	世界の食文化の現状、食文化が形成された背景について考察できず、説明できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 E①　歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
準学士課程の教育目標 F①　歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。

教育方法等

概要	世界の諸民族は、それぞれ多様な文化を育んできた。また、文化は伝播や他文化との接触により絶えず変化してきた。国際社会の中で活躍する技術者として、多様な文化の存在を理解し尊重することは重要である。本授業では、食文化を素材として、文化の形成や伝播について理解を深めることを目的とする。
授業の進め方・方法	日本と世界の地理・歴史に関する基礎的知識を前提とする。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	
		2週	日本の食文化（１）	今日の日本の食文化の特色について説明できる。
		3週	日本の食文化（２）	日本の伝統的食文化の形成過程について説明できる。
		4週	日本の食文化（３）	明治期以降の日本の食文化の変容過程について説明できる。
		5週	朝鮮半島の食文化（１）	高麗の時代までの朝鮮半島の食文化の特色について説明できる。
		6週	朝鮮半島の食文化（２）	高麗の時代以降の著線半島の食文化の変化過程について説明できる。
		7週	朝鮮半島の食文化（３）	朝鮮半島の食事作法の特色について説明できる。
		8週	稲作の起源と伝播（１）	稲の植物的特性と稲作の期限について説明できる。
	2ndQ	9週	稲作の起源と伝播（２）	稲作の伝播の過程について説明できる。
		10週	米とその料理法（１）	米の料理法と地域的特性との関連について説明できる。
		11週	米とその料理法（２）	米の料理法の発展・伝播の過程について説明できる。
		12週	もち文化（１）	もち利用の地域的特性について説明できる。
		13週	もち文化（２）	アジア諸地域のもち文化の特性について説明できる。
		14週	照葉樹林文化（１）	照葉樹林地域の地理的特性と文化的特色について説明できる。
		15週	期末試験	1～14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
		16週	期末試験内容についての解説	期末試験の内容を理解する。
後期	3rdQ	1週	照葉樹林文化（２）	照葉樹林文化の諸要素について地域的特性を説明できる。
		2週	照葉樹林文化（３）	照葉樹林文化の諸要素について地域的特性を説明できる。
		3週	麦文化とその伝播	麦の栽培地域の地理的特性と料理法の変遷について説明できる。
		4週	麦の料理法～パン（１）	世界各地のパンの種類と地域的特性について説明できる。
		5週	麦の料理法～パン（２）	世界各地のパンの種類と地域的特性について説明できる。
		6週	麦の料理法～パン（３）	世界各地のパンの種類と地域的特性について説明できる。

		7週	麦の料理法～麺（１）	麺の系列と伝播地域の過程について説明できる。
		8週	麦の料理法～麺（２）	世界各地の麺文化の特色について説明できる。
	4thQ	9週	麦の料理法～麺（３）	世界各地の麺文化の特色について説明できる。
		10週	麦の料理法～麺（４）	世界各地の麺文化の特色について説明できる。
		11週	世界の乳利用（１）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
		12週	世界の乳利用（２）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
		13週	世界の乳利用（３）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
		14週	世界の乳利用（４）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
		15週	まとめ	
		16週	定期試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	
		グローバリゼーション・異文化多文化理解	グローバリゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	

評価割合

	試験	レポート	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	経済学（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0172	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	総合科学科	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	使用しない		
担当教員	畔津 憲司		

到達目標

1）自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な経済のしくみを説明できる。
2）世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。
3）経済に関するメディア情報を適切に受信・活用することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	基礎的な経済のしくみを正しく説明できる。	基礎的な経済のしくみをおおまかに説明できる。	基礎的な経済のしくみを説明できない。
評価項目2	持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から正しく展望できる。	持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点からおおまかに展望できる。	持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できない。
評価項目3	経済に関するメディア情報を適切に受信・活用することができる。	経済に関するメディア情報をほぼ適切に受信・活用することができる。	経済・経営に関する基礎的用語及びそれらに関連するメディア情報を理解できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
準学士課程の教育目標 F① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。

教育方法等

概要	生活の基盤となっている経済の仕組みを学び、卒業後の社会人生活に備える。
授業の進め方・方法	とくに基礎知識は必要としないが、本授業を機会に新聞やニュースを見るように心掛けて欲しい。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	経済と市場	経済、分業、取引、市場の概念を説明できる。
		2週	市場経済システム	市場メカニズム、市場の失敗を説明できる。
		3週	市場価格	需要・供給の法則、市場価格について説明ができる。
		4週	消費者行動と価格戦略	価格戦略の基本について説明ができる。
		5週	経済規模の測定	GDPについて説明できる。
		6週	景気の測定	景気指標の見方を説明できる。
		7週	金銭の貸借取引	利子率、現在割引価値、収益率について説明ができる。
		8週	保険の仕組み	リスク、保険メカニズムを説明できる。
	4thQ	9週	貨幣の仕組み	貨幣の機能について説明できる。
		10週	金融政策	マネタリーベース、マネーストックについて説明ができる。
		11週	政府の役割と租税	租税の基本を説明できる。
		12週	所得税と消費税	所得税や消費税の仕組みを説明できる。
		13週	異なる通貨の交換	為替レート、購買力平価について説明ができる。
		14週	まとめ（1）	
		15週	まとめ（2）	
		16週	定期試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	

評価割合

	試験	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	100	100
	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	応用ネットワーキング※

科目基礎情報

科目番号	0173	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	徹底攻略 Cisco CCNA/CCENT教科書 ICND1編[640-802J][640-822J]対応、 インプレスジャパン、ソキウス・ジャパン		
担当教員	日高 康展,福田 龍樹		

到達目標

1. CLIを用いてルータの設定をすることができる。
2. RIPを用いて小規模ネットワークの構築をすることができる。
3. アクセスリストについて理解できる。
4. アクセスリストをインターフェースに適用し、パケットフィルタリングを行うことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ルータが適切な動作をするようにCLIを用いて設定をすることができる	CLIを用いてルータの設定をすることができる	CLIを使うことができない
評価項目2	RIPを用いて小規模ネットワークの構築を行うことができる	RIPを用いてルータの接続をすることができる	RIPについて理解していない
評価項目3	アクセスリストについて完全に理解し、その役割と設定方法について詳しく説明できる。	アクセスリストについて理解し、その役割と設定方法についてある程度説明できる。	アクセスリストについて説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	基礎ネットワーキングで学んだ事項を演習で確認する。実際にルータを操作して、パスワードリカバリー、TFTP、RIP、ACLについて学習する。またUTPケーブルの構造についても理解する。
授業の進め方・方法	原則として基礎ネットワーキングの単位取得者を対象とする。演習が中心である。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンスおよび基礎知識の確認	基礎ネットワーキングで学んだことを再確認する
		2週	CLIの操作１	CLIを用いてルータの情報を知ることができる
		3週	CLIの操作２	CLIを用いてルータの簡単な設定をすることができる
		4週	パスワードの設定	パスワードによりセキュリティが高まることを理解し、実際にパスワードを設定することができる
		5週	パスワードリカバリ	パスワードが分からないルータの復旧作業をすることができる
		6週	小テスト	１～６週の内容について理解し、実際にルータの操作をすることができる
		7週	静的ルーティング１	静的ルーティングの仕組みを理解しルータを設定することができる
		8週	静的ルーティング２	静的ルーティングを用いて２台以上のルータを接続することができる
	2ndQ	9週	RIPの使用１	RIPの動作について理解しRIPの設定ができる
		10週	RIPの使用２	RIPを用いて２台以上のルータを接続することができる
		11週	RIPの使用３	小規模なネットワークの設定ができる
		12週	RIPの使用４	小規模なネットワーク同士を接続することができる
		13週	TFTPによるIOSのバックアップ	TFTPを用いてIOSのバックアップができる
		14週	TFTPによるIOSのリストア	TFTPを用いてIOSのリストアをすることができる
		15週	小テスト	７～１４週の内容について理解し、実際にルータの操作をすることができる
		16週		
後期	3rdQ	1週	アクセスリストによるパケットのフィルタリング	アクセスリストによるパケットフィルタリングの概要を理解できる。
		2週	ルータの動作	アクセスリストが適用されたルータの挙動について理解できる。
		3週	アクセスリスト作成時の注意事項	処理の順番、暗黙の拒否などアクセスリスト作成時に注意すべき事項について理解できる。
		4週	ワイルドカードマスク	ワイルドカードマスクの役割と使用方法について理解できる。
		5週	標準IPアクセスリストの作成	標準IPアクセスリストの作成方法について理解できる。
		6週	拡張IPアクセスリストの作成	拡張IPアクセスリストの作成方法について理解できる。
		7週	アクセスリストのインターフェースへの適用	作成した標準 IPアクセスリスト及び拡張IPアクセスリストをインターフェースへ適用する方法を理解できる。

		8週	中間試験	１～７週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
	4thQ	9週	試験内容についての解説	中間試験の内容を理解する。
		10週	ネットワークの構築１	PC、スイッチングハブ、ルータをケーブルで正しく接続し、パケットフィルタリングの実験環境を構築できる。
		11週	ネットワークの構築２	各PC、インターフェースに適切なIPアドレスを設定し、LANを構築することができる。
		12週	標準IPアクセスリストによるパケットフィルタリング	標準IPアクセスリストを作成、適用し、パケットフィルタリングを行うことができる。
		13週	拡張IPアクセスリストによるパケットフィルタリング1	拡張IPアクセスリストを作成、適用し、パケットフィルタリングを行うことができる。
		14週	拡張Pアクセスリストによるパケットフィルタリング2	拡張IPアクセスリストによってFTPなど特定のアプリケーションに対してパケットフィルタリングを行うことができる。
		15週	定期試験	９～１４週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
		16週	定期試験内容についての解説	定期試験の内容を理解する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0